

能「高砂」から



狂言「柿山伏」から



狂言「柿山伏」は、修行を終えた山伏が、帰路に思わず柿を盗み食いし、柿の木の持ち主に見つかった、さんざんからかわれ懲らしめられるというお話。持ち主が「隠れたのはカラスか」

お隣の中央区、大阪城の近くにある大槻能楽堂で、1月18日に「小学校 能楽鑑賞会」が開かれ、扇町小の6年生65人が厳かな雰囲気漂う本格的な能舞台での能と狂言を鑑賞しました。 笛、小鼓など能で使われる楽器の紹介に続いて、狂言「柿山伏」と能「高砂」が上演されました。それぞれの演目の前には分かりやすい解説があり、鑑賞の大きな助けになりました。

# 能楽@大槻能楽堂

## 厳かな能の空間を体験

楽器の紹介

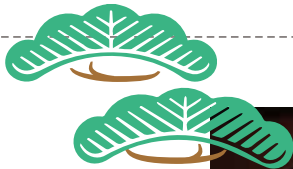


「いやサルじゃ」「サルではのうてト」 と言った時、動物の真似をする羽目になる山伏の姿に笑い声が上がりました。 「高砂や この浦舟に帆を上げて」で始まる詞章で有名な能「高砂」の舞台は住吉大社(住吉区)、主人公の老人は住吉明神の化身です。ふだんはなかなか行く機会のない本物の能楽堂で、大阪ゆかりの能を鑑賞する貴重な体験となりました。 聴こえにくい児童のために大意を字幕と手話通訳でも伝えました。

### 〈大槻能楽堂〉

(中央区上町)

1935年に親世流シテ方の故大槻十三さんが創建。能楽堂の客席は畳敷が普通でしたが、日本で初めて椅子席(500席)にしました。1983年に建物は鉄筋コンクリートに改築されましたが、能舞台は創建当時のまま組み直したものです。2014年に国の登録有形文化財に指定されました。2020年に改修、能楽以外の舞台芸術にも対応できる空間になりました。財団法人で運営、現理事長は親世流シテ方で人間国宝の大槻文蔵さん。



2月1日にザ・シンフォニーホールで、小学生向けに日本センチュリー交響楽団の演奏会を実施の予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で中止となりました。株式会社ザ・シンフォニーホールの喜多弘悦・取締役GM兼音楽総監督から「開館から今

### 世界に誇る「残響2秒」



日本センチュリー交響楽団 ©Masaharu Eguchi

年で40周年。迫力満点のオーケストラの響きを北区の小学生のみなさんに楽しんでもらえる日を心待ちにしています」とメッセージが寄せられました。



### 〈ザ・シンフォニーホール〉

(大淀南2)

1982年に日本初のクラシック音楽専用ホールとして開館。クラシック音楽に最高の環境といわれる「残響2秒」を追求して設計され、20世紀を代表する指揮者、故ヘルベルト・フォン・カラヤンからも「世界一の響き」と絶賛されました。舞台後方にパイプオルガンを備え、客席(1,700席)は舞台を360度囲むアリーナ形式の配置。現在、日本センチュリー交響楽団など大阪が拠点の3オーケストラと、吹奏楽のOsaka Shion Wind Orchestraが定期演奏会の会場としているほか、様々なクラシックコンサートが開催されています。

『リトルマーメイド』の舞台イメージ ©Disney



# ミュージカル@大阪四季劇場

### カラフルな舞台に夢中

劇団四季のミュージカル『リトルマーメイド』を10月から11月にかけて、5中学校の3年生計512人が鑑賞しました。 劇場版長編アニメーションを舞台化したディズニーマジカルで、日本では劇団四季が2013年に初演。大阪四季劇場で2018年10月から21年11月まで約3年間、ロングラン上演されました。 色鮮やかな美術や衣裳、海中を表現した躍動感あふれる演出、迫力ある歌やダンスに、生徒たちは身を乗り出して舞台に見入っていました。 劇団四季は海外ミュージカル、オリジナルミュージカル、ストレートプレイ(芝居)など幅広いレパートリーを全国で上演。年間の総公演回数は3000回以上、総観客数は300万人を超える、世界的にも最大規模の演劇集団です。



### 〈大阪四季劇場〉(梅田2)

全国に7か所ある劇団四季の専用劇場の一つ。西梅田の商業施設「ハービスPLAZA ENT」7階に2005年にオープンしました。客席数は約1,200席。3/6(日)からミュージカル『オペラ座の怪人』の公演が始まる予定。



撮影:中島仁寛